

利尻山、礼文岳、礼文島トレッキング山行報告

「山城」北海道

「ルート」利尻山&礼文岳、礼文島トレッキング

「登山ルート」ハイキング

「行動日」7/5～7/9

「内容」

7/5 羽田空港 10:30⇒稚内空港⇒稚内港 16:40⇒鴛泊港⇒タクシーにて利尻島北麓野営場
18:45 テント設営、夕食後就寝

飛行機は、シルバー当日割引切符で約半額お得で出発した。稚内到着後、鴛泊行のフェリー時刻まで、3時間余りを、古代ローマ風建築物の稚内港北防波堤ドームの見学や、お祭りで賑わう露店を覗きながら、ガスボンベを買い求めたりと、出港時間を待って、ようやく、稚内港から鴛泊港に 18:20 に着いた。山麓野営場までタクシーで 10 分ほど、テント設営し、夕食を済ませる。明日の日中の暑さを考えると、登山コースを逆回りにし、早朝この野営場の出発に変更し、山行管理者の江橋さんに変更の連絡して就寝。

7/6 (晴) テント 4:15ー長官山 6:30/6:42ー利尻山山頂 8:10/8:55ー三眺山 9:48ー見返し台分岐 11:45ーホテル利尻 13:56/16:00⇒バス利尻富士温泉ー徒歩ー18:20 北麓野営場 (泊)

北海道の夜明けは早く餅入りうどんを食べ早々に出発！途中甘露泉水で、水の補給をして、針葉樹林帯を緩やかに進み、第一展望台に立つと、礼文島が海霧の中に浮いて見えた。初感動にシャッターを押す。この先、ジグザグの急登となるが、露に濡れたイワギキョウ、キタノコギリソウ、クワガタソウ、ウコンウツギ等の花々が、癒してくれる。



シユムシユノコギリソウ



リシリゲンゲ



アズマギク

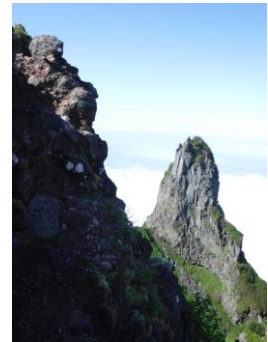
長官山の標柱を目にしたものの利尻山山頂部はガスに覆われ望めなかった。少し下って、避難小屋を後に、9合目あたりから、ガレ場に咲く花が目立ってきたが、利尻ヒナゲシの花は見つけれず、残念！ろうそく岩を見て、杓形の分岐を過ぎると神社のある北峰山頂に立つ。南峰へのルートは、崩壊が激しく進入禁止になっていた。眼下はもくもくとした雲海！山頂は、快晴！南峰へ目を向ければ、鋭い岩稜に白や黄色、紫の花々が色を染め、花の豊富さは、北海道の山に登っている事に実感する。リシリゲンゲ、イワベンケイ、カラフトゲンゲ、エゾツガザクラ、エゾハクサンイチゲ等花盛りである。頭上にアマツバメが、ブシュッ、ブシュッと、羽音を立てて飛び交っている。山頂での長い休憩は、素晴らしい情景を堪能した。



利尻山山頂



三眺山から利尻山西壁を望む

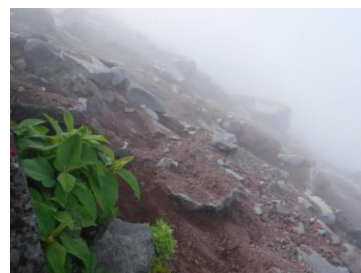


ローソク岩

今回の核心！沓形へのルートを進る。分岐から、すぐに急斜面の岩場となり、トラロープも多くなる。足元を隠す草を掻き分け、後ろ向きに下りる事もしばしば！又、親知、子知、背負い子投げ等と、看板があり、崩壊地のトラバースの通過は、気を抜けない難路が続いた。このルートにも、花は多く、ボタンキンバイは見事であった。振り返る方向に、山頂から、仙法志稜の岩稜帯が、ガスの中から姿を見せ始め息をのんだ。三眺山に着いた時、荒々しい利尻山の素晴らしい雄姿を仰ぎ見た。暫くその大景観に浸る。



崩壊地のガレ場



ガレ場のトラバース

ガスが消え、展望を得るようになると、火山の山であったことが良くわかる。避難小屋辺りから涸れ沢状ルートになり、苔のついた石がゴロゴロ、泥濘等、粘土質で良く滑り難儀した。見返し園地の手前から、旧道を進む。草刈はされていたが、踏み跡は無いに等しい。炎天下の車道を歩くよりましだ！明るい林を延々と一時間半歩き、沓形の海が見えてきた。タクシーに乗らず良く歩いた。バスの時間まで、二時間余りを、温泉でくつろぎ、バスを待って野営場に戻る。泥だらけのズボンと靴を洗って一段落。真っ赤な夕焼けにコーヒーで乾杯！



崩壊地



ボタンキンバイ



歩く人の少なそうな旧道

7/7 (晴れ) 野営場 8:00—駕泊港フェリー9:20⇒香深港 10:05⇒バス、内路登山口 11:00—礼文岳 12:50/13:30—内路登山口 14:50—香深井、緑ヶ丘公園キャンプ場 17:00 テント(泊)

野営場から船着場まで下り坂とはいえ、6km 余り歩き汗を流した。洋上から利尻山に名残惜しみつつ、礼文島に向かう。香深港に着いて直ぐ、観光案内所にて、二泊目の宿を探し、運よく民宿を予約できた。今日のキャンプ場行のバス停で、時間的に礼文岳へ行けることが解り、急遽、礼文岳に登る。登山口を少し登った木陰に、ザックをデポして、天蓋に、必要なものを詰めて登。ダケカンバやトドマツの小路を進み、木々の間に光る久種湖が見えてきた。400m のピークから、礼文岳の山頂に続く登山道を望む。ハイマツを掻き分け進み山頂に立った。礼文島の丘陵が、たおやかに広がり、又、海上に浮かぶ利尻山を望み、360 度の大パノラマは素晴らしい！明日のコースが、一望できるのもうれしい！離れがたい山頂を後に、往路を下った。二時間待ちのバスを待つのもつらいし、タクシーもない！仕方なく、キャンプ場まで歩く。またもや、6km 位あるだろう。今日の登山をご一緒した方と、海岸線をひたすらキャンプ場まで歩く。道路には、カモメが食べたであろうウニの殻がたくさん散らばっていた。テントを設営後、キャンプ場の、自転車を借り 2 km先のセイコーマートに買い出しに行き、夕食を共にした。リタイヤ後、バイクで北海道の山歩きをしているような！明日は、桃岩方面を回って稚内に行くと言っていた。自分は、明日も早朝発で8時間コースを歩く予定なので、お先に失礼し就寝した。

7/8 (晴) キャンプ場 4:30—宇遠内 5:45—西上泊 9:05/9:40—ゴロタ岬 11:40/12:48—スコトン岬 13:45/14:29—浜中バス停 16:17—香深井バス停 16:40—キャンプ場テント撤収—民宿香栄丸 (泊)



利尻山をバックに礼文岳山頂



海食崖直下を歩く



ゴロタ岬からスコトン岬を望む



トド島の遙か先は、樺太！



宇遠内の港



レブンウスユキソウ

テントを張ったまま出発。キャンプ場から、利尻山を望み林道へと下る。間もなく香深井林道に入り一尾根越して、宇遠内へと進む。過って、宇遠内漁港への唯一の林道？漁港が、廃港のように見えた？林道は荒れてきている。人の気配はなく、ちょっと不気味な漁港に降りた。そして、海霧に覆われた、断崖絶壁の海岸線は、恐ろしいほど静で、この景色に飲み込まれてしまいそうな恐怖を感じ、楽しむ余裕もなく歩いた。断崖に阻まれ、アナマ川が入り込んでいるところで、踏み跡を見つけ、高山植物が咲き乱れる急斜面を登り稜線に立つ。ほっとして、おにぎりを食べていると、カラスが、すぐ近くまで来て、おにぎりを狙っているようで、怖かった。ダケカンバ、エゾマツト、ドマツの森を抜け、笹原の丘陵地帯を下って、西上泊港に着く。ここの売店で、ここでしか味わえないだろう、お目当てのうに丼を食べた。最高のご褒美だ！帰りのバスの時間まで、充分時間があつたので、岬コース、9km 歩いて、スコトン岬を目指す事にした。番屋集落の鉄府から、碧青色の海に突き出るゴロタ岬の風景は高揚を覚えるほど素晴らしかった。ゴロタ岬周辺は、高山植物の花々が、沢山咲き、マリンドブルー色の湾は、スコトン岬に続く。花の浮島！遠く北を見ると、スコトン岬、トド島の遥か向こうの雲が、樺太のように見える？無風で暑い最北の地の花園では、真冬の景色は想像できない！最北のバス停を過ぎると、間もなくスコトン岬に到着する。ここでバスを二時間も待つのは苦痛だったので、バス道を歩く事にした。浜中のバス停まで、海岸線を1時間半ほど、直射日光を浴びながら歩いた。きつかったが、営みのある道のりは、興味深くもあつた。浜中のバス停からバスで、キャンプ場に行き、テントを撤収して、宿に向かった。今日も良く歩いた！香深井から西海岸を縦断し、その先、岬コースを繋いで、おまけにバス道があるいて、歩行距離約 30km 歩いた。宿の食事は、美味しく、利尻、礼文島の最後の晚餐は、至福に満たされた。

7/9 香深港 8:45 フェリー⇒稚内港 10:45 バス⇒稚内空港 13:00⇒羽田空港 14:55⇒帰路

記録 吉川